



やさしく  
かしこく  
たくましく

## 学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

今更ながらではありますが、まとめと仕上げ、そして次年度のために

# 家庭学習 その1

一緒に考えて  
みましょう!

子ども達は今を、そして未来を生きます。現在、社会は益々のグローバル化や社会構造の変化等、急速に変化しており予測困難な時代となっています。これまで以上に子ども達の「学力向上」は喫緊の課題といえます。確かな「学力の定着」、そして「学力向上」のためには、**第一には学校での学習指導の充実**が欠かせません。子ども達の、教育に従事する専門職として、私達教師は、その指導力を高め、全力を挙げて指導に臨まなければなりません。

その指導の中、一つの手立てとしてほとんどの教師は子ども達に「家庭学習(いわゆる宿題)」を課します。(もちろん今回の冬休みにも、全学年において、冬休みの課題(宿題)を出してありました。)

そんな「家庭学習」に対し、次のような声が聞こえてくることがあります。

「先生、子どもが勉強しないので、**もっと宿題を出してください。**」

「先生、宿題が多くて大変です。自由でいいじゃないですか。**宿題を減らしてください。なくしてください。**」



両極端な二つの意見。こういった考えや意見を保護者様から聞いたことがある教師はたくさんいるようです。子育てに関する考え方、教育に関する考え方。それは時代によって、社会によって、そして人それぞれ多種多様な考え方や価値観があり、違っているでしょう。100%、どれが正しく、どれが間違っているということはないのだと思います。従って家庭学習(宿題)に対する考えも様々なのでしょう。

ただ、一つ言えること。それは「家庭学習の大切さ」です。

**学力の定着や向上に関する“家庭学習の重要性”が各種の調査データからも明らかになっていることです。**

例えば、小学6年生と中学2年生を対象として実施されている全国学力・学習状況調査の分析結果からは、学力と学習・生活環境は大いに関連性があり、概ね次のような結果があるようです。

1. 家で家庭学習をしている児童・生徒ほど、国語・算数ともに正答率が高い傾向がある。
2. 家で計画を立てて勉強をしている児童・生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。
3. 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけをよく行っている学校の方が、家できちんと宿題に取り組む児童の割合が高い傾向がある。



文部科学省も小学校学習指導要領解説において「特に、**低・中学年において学習習慣を確立することは極めて重要**であり、**家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課す**など家庭学習も視野に入れた指導を行う必要がある。」と示しています。

また、長崎県教育委員会は、長崎県「**新学力向上のための三つの提案**」の中で、その二つ目には「『夢・憧れ・志』を育む**家庭・地域との連携**」が提案され、「課題の質と量を見極め、**自主的な家庭学習の習慣化を図るための連携**」ということを示しています。

子どもに学力を付け、高めるには、**学校での学習と共に、家庭での学習が重要**ということです。

**家庭学習の意義や効果**はいくつかありますが、中でも**次の二つは特に大切なこと**です。

- ① 学習内容の**定着**・・・学校で学習したことを家庭で復習することにより**習熟・定着を図ることができる**。
- ② **学ぶ習慣をつける**・・・毎日家庭学習を続けることにより、**自ら進んで学ぶ習慣が身につきます**。

以下、詳しくは次号の学校便りでお伝えします。